

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

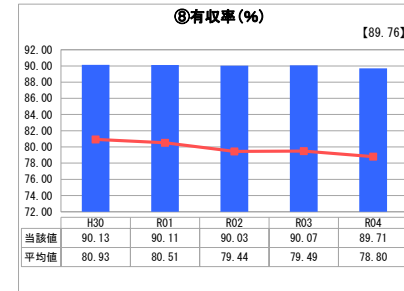
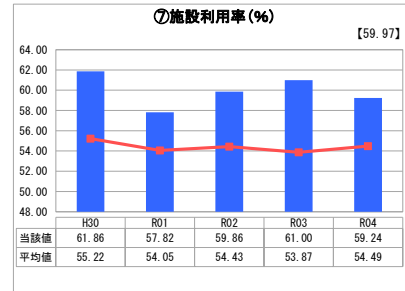
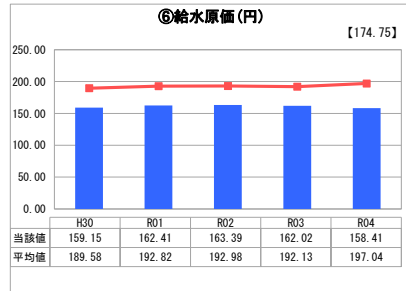
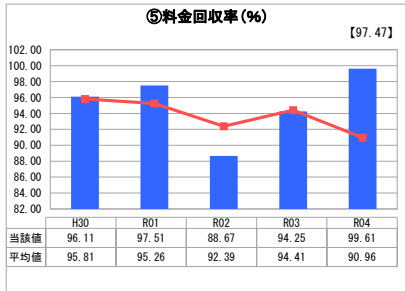
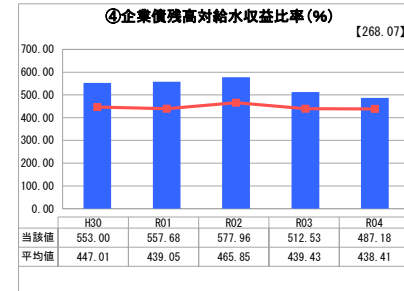
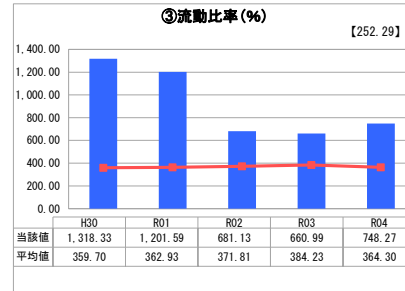
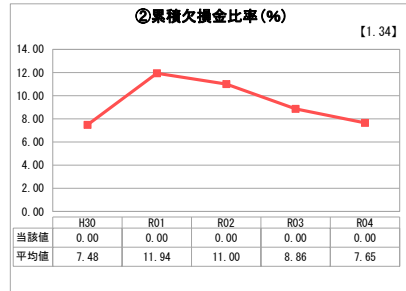
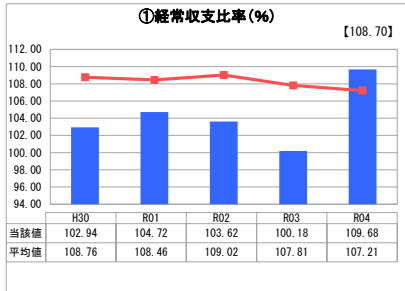
長崎県 川棚町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)	
-	54.40	99.46	3,520	

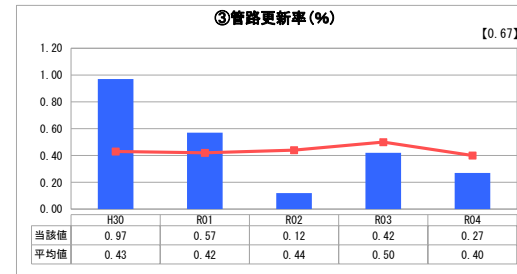
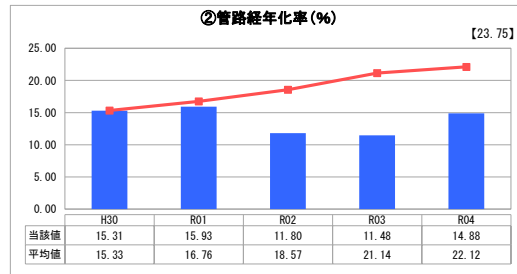
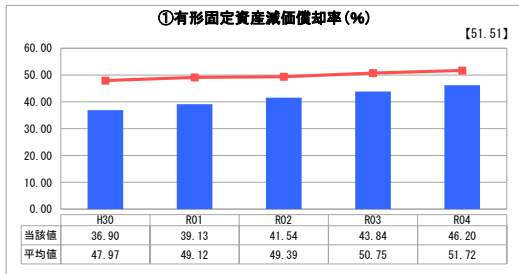
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
13,400	37.25	359.73
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
13,223	13.90	951.29

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は、前年度に比べて9.5ポイント増となった。大幅増となった要因は、大手企業の減価償却を縮小したためである。H30以降黒字を維持している。

②欠損金は発生していませんので、累積欠損金比率の数値はありません。

③流動比率は、全国平均・類似団体平均値を大きく上回っており、流動資産の構成比率も現金預金が大部分を占めているため、十分な支払能力が確保されています。

④企業債残高対給水収益比率については、施設の更新に充てた企業債の増加により、高い水準で推移しています。また、企業債残高は減少しているものの給水収益も減少しているため、高い数値となっています。

⑤料金回収率は、全国平均・類似団体平均値をR4は大幅に上回っています。要因としては①の大手企業の減価償却を縮小したことによるものです。

⑥給水原価は、類似団体平均値を下回っており、前年度に比べて3.61円減少しました。経常費用が減少したためです。

⑦施設利用率は、総配水量が減少したため昨年よりも低い数値となっておりますが、類似団体平均を上回っています。

⑧有収率は、類似団体平均を大きく上回る数値で推移しており、適正な施設規模を維持していると考えられます。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、全国平均・類似団体平均値を下回っているが、増加傾向にあるため、経営戦略や投資計画等の見直しを行い、更新に必要な財源等を確保する必要があります。

②管路経年率も全国平均・類似団体平均値を下回っているが、①と同様に増加傾向にあるため、計画かつ効果的な管路の更新に取り組む必要がある。

③管路更新率は、昨年より0.15%低下し、かつ全国・類似団体平均を下回っており、ここ数年低い比率となっている。今後、更新等に係る費用や財源を見極め、優先度の高い管路の更新を実施していく必要がある。

### 全体総括

経営の健全性・効率性の指標から、収益性を確保するまでには至っていませんが、経常利益を確保し、黒字経営を維持することができています。ただし、老朽化の状況の指標から、施設全体での更新はできていますが、経年管路の更新が進んでいないため、これからは耐用年数を経過した管路の更新に優先的に取り組む必要性を示しています。更新投資に充てる財源を確保するため、費用削減などによる更なる経営の効率化や適切な料金水準の確保などに取り組む必要があります。